

感染症情報 5月30日～6月5日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1334例	（堺市 57例）
②溶連菌感染症	594例	（堺市 30例）
③おたふくかぜ	310例	（堺市 21例）
④咽頭結膜熱	185例	（堺市 8例）
⑤ヘルパンギーナ	180例	（堺市 2例）

が報告された。

感染症は全体として前週から7%減少し、上位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。溶連菌感染症は7週ぶりに前週より6%減少し、増加傾向に歯止めがかかった。おたふくかぜが前週より22%増加し、泉北でも流行している学校・園がある。髄膜炎の合併が多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）も6%増加して第4位に入り、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。全国的にも増加傾向であるので、注意したい。同じく夏型感染症のヘルパンギーナが前週の2.3倍となり、堺市内の一部で流行が始まっており、今後の流行に注意したい。

はしかと風疹の報告はなかった。